

阿寒国立公園・藻琴山(1,000m)における山のトイレ問題について

松尾 英樹(東京農業大学 非常勤講師)・外崎 秀和(㈱エコニクス環境事業部)

北海道百名山(北海道新聞社刊)に選定されている藻琴山は、近年の健康志向ブームや学校教育登山などで3千人の登山者(網走南部森林管理署入林届より)が訪れる手軽な山である。

登山道入口は、①平成7年開館した小清水ハイランド725施設側(以下小清水町側)と、②大空町東藻琴銀嶺水側(以下大空町側)の2ルートがある。

登山者は、①では簡易水洗トイレ(男”小”3”大”3”、女5、バリアフリー1)、②では昭和36年築木造建屋の野積み式トイレにて用便を済ませてから、行動している。

登山道上では、お地蔵様のある広場奥、屏風岩付近、頂上直下広場隅にて、山のトイレ問題が往年より潜在化している。

藻琴山でのトイレ問題点としては、以下の3点があると考えられる。

1点目は、①トイレは現在解消されているが、24時間利用が防犯上の問題から時期的に制限されていたこと。②トイレは、野積み式トイレのままであること。

2点目は、携帯トイレの販売回収システムは、①②登山口双方共に、未だにないこと。

3点目は、トイレ(尿意便意)を我慢しづらい小中高校生などの団体利用が多いこと。

さらに、冬山初心者に人気のある冬期11~4月下旬は①は閉鎖となり、近郊では川湯温泉、または大空町東藻琴市街にまで移動しないと、トイレはないという地域位置環境にある。

これらは初心者及び身近な山のため、意識啓発がなかったことが想定されるが、しかしながら、今後、山でのトイレ意識の改善へ教育効果的な可能性を高く秘めているとも考えられる。

次に、当地における残物の分解に要因する地面気温環境を参考に示す。自記録気温測定器(サーモクロンG, KNラボラトリーズ/60分間隔)を用いた結果、融雪後5月17日から降雪期10月27日までの平均気温は6.5℃(最高気温22.5℃、最低気温-2.0℃)、初冬に-11.2℃まで下がった後、積雪期には-0.5℃にて推移している寒冷地環境にあることが、現在のところ解明されている。(鈴木悌司, 中村隆俊, 松尾英樹, 外崎秀和 未発表)

今後、小清水町、大空町、弟子屈町、美幌町(以上、藻琴山行政区域自治体)、オホーツク及び釧路総合振興局、環境省及び林野庁も含めた関係機関、地域住民や登山者の連携等による藻琴山のトイレ対策の在り方の検討が課題となってきたと考えられる。

藻琴山頂上の姿



眼下に広がる屈斜路湖



銀嶺水側登山口の湧水

